
令和7年度（令和6年度対象）

教育委員会点検評価報告書



人工巣塔で初めてふ化に成功したコウノトリ
淡路市内撮影

令和7年9月
淡路市教育委員会

『淡路市のめざす教育の姿』

【基本理念】 ふるさと淡路を創る ～未来に輝く人づくり～

教育大綱	教育振興基本計画	教育方針
重点目標	重点事業	
人づくり (心豊かで調和のとれた人の育成)	・ キャリア形成の支援と国際化に対応した教育を推進する ・ 道德教育・体験活動を充実し、豊かな人間性や社会性を育む ・ 人権感覚に満ちた人づくりに努める	
学校・園づくり (安全で信頼される教育環境の充実)	・ 基礎的・基本的な知識・技能と、思考力・判断力・表現力等を伸ばし、主体的に取り組む態度を養う ・ 教育研究活動活性化事業「あいプロジェクト」「学びイノベーション事業」を発展充実させる ・ 自尊感情を育む人権教育を推進する ・ 地域と連携した防災教育を推進する ・ 学校保健を充実し、生涯にわたる健康の基礎を培う ・ 食育を通じて健康な心と身体を育成する ・ 共に生きる社会をめざす特別支援教育を推進する ・ 子どもの安全を守る体制、教育環境・施設の充実を図る ・ 教育センターの機能を充実し、教育課題の解決を図る ・ 生徒指導体制を整備・充実する	
地域づくり (「オール淡路」で取り組む子育て支援)	・ 青少年健全育成を市民ぐるみで推進する	
生きがいづくり (文化・スポーツ振興を通した生涯学習)	・ スポーツ活動を振興する ・ 生涯学習の機会・環境を充実させる ・ 図書館のサービス体制を充実させる	
ふるさとづくり (郷土を守り、未来に生かす淡路市の教育)	・ 芸術・文化活動を振興する ・ 文化財を適切に保存、積極的に活用する ・ ふるさとを学び、地域社会に対する誇りと愛情を育む	

も く じ

もくじ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
◆学校教育	
1. キャリア形成の支援と国際化に対応した教育を推進する 基礎的・基本的な知識・技能と、思考力・判断力・表現力等を伸ばし、主体的に 取り組む態度を養う 共に生きる社会をめざす特別支援教育を推進する・・・・・・・・	2
2. 自尊感情を育む人権教育を推進する・・・・・・・・	3
3. 道徳教育・体験活動を充実し、豊かな人間性や社会性を育む・・・・・・・・	4
4. 地域と連携した防災教育を推進する・・・・・・・・	5
5. ふるさとを学び、地域社会に対する誇りと愛情を育む・・・・・・・・	6
6. 子どもの安全を守る体制、教育環境・施設の充実を図る・・・・・・・・	7
7. 教育研究活動活性化事業「あいプロジェクト」「学びイノベーション事業」を 発展充実させる・・・・・・・・	8
8. 学校保健を充実し、生涯にわたる健康の基礎を培う 食育を通じて健康な心と身体を育成する・・・・・・・・	9
◆社会教育	
9. スポーツ活動を振興する・・・・・・・・	10～12
10. 人権感覚に満ちた人づくりに努める・・・・・・・・	13～14
11. 生涯学習の機会・環境を充実させる 図書館のサービス体制を充実させる・・・・・・・・	15～16
12. 青少年健全育成を市民ぐるみで推進する・・・・・・・・	17～18
13. 芸術・文化活動を振興する・・・・・・・・	19
14. 文化財を適切に保存、積極的に活用する・・・・・・・・	20～21
総評・その他・・・・・・・・	22
※2ページ以降の表中に記載している「担当課」は、点検・評価を担当した課を示しています。	

1. キャリア形成の支援と国際化に対応した教育を推進する
 基礎的・基本的な知識・技能と、思考力・判断力・表現力等を伸ばし、主体的に取り組む態度を養う
 共に生きる社会をめざす特別支援教育を推進する

【重点目標】①グローバル社会を生き抜くための資質・力の育成に努める

②児童生徒それぞれの興味・関心等に応じて学習課題を設定し、自ら学び考える力を育てる

③多様な教育的ニーズに応じた教育の充実、関係機関との連携による支援の充実を図る

事務事業名等	事業内容	評価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
特別支援教育支援員配置事業	インクルーシブ教育を充実させるため、特別な支援を必要とする児童生徒が在籍する学校に支援員を配置し、児童生徒に応じたきめ細かな支援ができるようにする。 支援員配置 小学校8校(23人) 中学校5校(9人) 看護師配置 小学校1校(1人) 中学校2校(2人)	【成果】 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援をすることができた。通常学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒に対しても、困り感に沿う支援ができた。 【課題】 通常学級に在籍する特別な支援を要する児童生徒は、増加傾向にある。引き続き、適切な支援員の配置に努める。	学校教育
ひょうご学び支援事業	基礎学力の定着及び向上に向けて、全国学力・学習状況調査結果の分析・検証及び県が提示する重点取組内容に基づき、小中学校において、基礎学力に課題が見られ、個別の支援が必要な児童生徒に対して、地域人材を活用した授業中や放課後の学力向上方策に取り組む。また、不登校児童生徒の支援も行う。 事業費 1,312千円 実施校 小学校9校(13人) 中学校3校(3人)	【成果】 児童生徒それぞれの課題に寄り添い支援を行った。授業中の同室指導、放課後の個別指導等多様な形態で、理解度に合わせた教材を提供し、能動的に学ぶ姿勢や意欲を育成した。 【課題】 講師、学校職員の適切な情報共有が必要であるが、十分に時間を取ることができないケースが多く、報告、連絡、相談の工夫が必要であった。また、指導者である地域人材の確保も困難である。	学校教育
不登校児童生徒(校内サポートルーム)支援員配置事業	増加している不登校及び不登校傾向にある児童生徒への支援を、地域人材を活用して学習面・生活面を合わせて行うことで、学校に来られる日数や時間を増やし、児童生徒の状況に応じて、通常の登校や学校とのつながりを保つことを目指す。 事業費 6,829千円 配置校 小学校2校(2人) 中学校5校(5人)	【成果】 不登校及び不登校傾向にある児童生徒にとって、教室以外の居場所があることは、登校の動機付けとなっている。また、該当児童生徒は学習の遅れが不登校傾向を強める一因となることが多く、個別に学力を付けることで、不登校を防ぐことにつながっている。 【課題】 各校の空き教室等の状況により、適切な教室が確保できない場合がある。また、適切な人材を継続して確保していくことが課題である。	学校教育
外国青年招致事業	小中学校における英語教育の充実を図るため、外国語指導助手(ALT)を8人配置する。小学校における外国語科、外国語活動及び中学校英語科の授業においてチームティーチングを行い、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成を図る。 事業費 33,412千円 配置校 全校(16校)	【成果】 各小中学校にALTを配置し、週一度以上は、ALTによるネイティブ発音に触れる授業を受けることができるようになっている。授業内外で、ALTに自分の英語が通じたときやALTの話す英語が理解できたときの喜びが、英語学習の意欲の向上につながっている。 【課題】 授業準備のための打ち合わせの時間や児童生徒理解のための時間の確保が課題である。	学校教育
[学識経験者の意見]	○「特別支援教育支援配置事業」では、ニーズに応じた取組がされており、児童生徒の安全安心な学校生活に大きく寄与しています。支援員の確保と支援の必要な児童生徒の把握を、今後も引き続きお願いします。 「ひょうご学び支援事業」では、能動的に学ぶ姿勢や意欲の育成がなされ、素晴らしい取組がされていることが読み取れます。情報共有を密にいただき、児童生徒に学ぶことの楽しさを伝えていただきますようお願いいたします。校内サポートルームの設置と支援員の配置は、不登校及び不登校傾向にある児童生徒にとってのよりどころとなっています。少しでも学校とのつながりが保てるよう、今後もより良い事業展開をお願いします。 「ALT配置事業」は、英語教育にとってネイティブ発音に触れる良い機会となっています。外国人が多く訪れている昨今、いろいろな職場で英語を生かせる場面がたくさん出てきています。会話できることは、将来のために大きく羽ばたけるチャンスをつかむきっかけになることを願っています。 ○特別な支援を必要とする児童には、支援員の充実と柔軟な対応力と思います。成果として、支援ができたことに、評価します。これからの増加傾向が課題ですので、連携を取り、専門性の向上を望みます。「ひょうごがんばり学びタイム」ですが、基礎学力向上の理解度に合わせた育成は寄り添った対応です。児童のバランス対応として、特に、不登校傾向にある児童への支援の取組により、自ら学べる力になることを願います。ポイントを押さえた効力的な実施を、引き続きお願いします。ALTを配置することで、児童生徒の英語への興味が深くなり、喜びと感じられていることが、この先英語を学ぶ以外にも、世界の課題や異文化への理解力も育まれると思います。交流を深め、たくさんの楽しみが見つけられることを願います。		

2. 自尊感情を育む人権教育を推進する

【重点目標】①一人一人の自尊感情を高め、自己実現と共生をめざす人権教育を推進する
②人間的な触れ合いを通して、心の絆を深める生徒指導の充実を図る

事務事業名等	事業内容	評 価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
人権教育授業研究の実施	各校において人権教育上の課題を共有し、教育活動実践に当たっての工夫改善のための情報交換を図っている。	【成果】 推進に当たっては、授業や学校教育活動全体を通じて、児童生徒一人一人が自尊感情を高め、自他共に尊重し合う人間関係を築く力を培うことができるよう取り組むことができた。公開授業を実施し、発達段階に応じた指導内容及び指導方法の工夫を行い、指導の改善等について、学校間の情報共有を図ることができた。 公開授業 小学校低学年部会 11/8 大町小学校(1年) 小学校中学年部会 11/19 学習小学校(4年) 小学校高学年部会 10/22 多賀小学校(6年) 中学校部会 11/14 北沢中学校(1～3年) 【課題】 第2次淡路市人権まちづくり基本計画を進める中、インターネットによる人権侵害、外国人、多様な性等、現代的な人権課題に応じた研修の必要性が高まっている。	学校教育
[学識経験者の意見]	○「人権感覚に満ちた人づくりに努める」ことが、重点事業の一つとなっています。各学校において、発達段階に応じた取組がなされていることに、敬意を表します。情報過多により、大人でも何が本当かを見極めることが難しい時代になっています。課題だけに目を向けるだけでなく、人権教育を進めるに当たって、良き面にも焦点を当て、誇りを持って生活できている部分を取り上げていくことにも力を注いでいただくことをお願いします。世界から見て、日本の子どもが賞賛されていることが多々あります。そんなことも取り上げてみてはいかがでしょうか。 ○様々な人に関わり、自分とは違うこと、違いを知り交流し理解を深め、自分自身を尊重し、自分自身が価値ある存在と認める感性を育むこと。そして、自分が相手の立場になり思いやりを持ち考える人になること。人権とはとても大切で、そして、家庭で教わるのとはまた違い、学校で教わることはとても広い範囲ですので、重要です。「第2次淡路市人権まちづくり基本計画」の取組が、差別をなくし、絆ができると願っています。公開授業は、各学校の特徴や学年別での課題も見つけて活動実践を行ったと思いますが、課題が多種ある中、これからも内容を掘り下げた人権教育の実施を、引き続きお願いします。これからの研修に期待します。		

3. 道徳教育・体験活動を充実し、豊かな人間性や社会性を育む

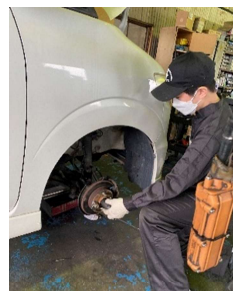
【重点目標】①児童生徒の内面に根ざした道徳性の育成に努める

②体験的・実践的な活動を通して、より良く生きるための基本的な心構えや行動の仕方について学ばせる

事務事業名等	事業内容	評価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
自然学校推進事業	小学校5年生が4泊5日、学校や家庭から離れ、豊かな自然の中で集団生活を通して仲間との協調性や自主性を育む。 事業費 5,114千円 実施期間 10月14日(月)～10月18日(金) 11月4日(月)～11月8日(金) 参加人数 301人 実施場所 国立淡路青少年交流の家	【成果】 豊かな自然の中での集団生活を体験するため、市内全小学校が5日間の宿泊体験活動を行った。経験を通じて、児童一人一人が自己効力感を育み、集団の中での役割を果たし、主体的に判断し、仲間と共に、より良く過ごす喜びを味わうことができた。 【課題】 指導員と救急員の確保が困難である。また、物価高騰により活動プログラムの工夫が必要である。	学校教育
地域に学ぶトライやる・ウィーク推進事業	中学校2年生が5日間、学校を離れて地域の事業所等で職場体験活動や奉仕体験、文化活動体験等に取り組む。 事業費 2,348千円 実施時期 5月13日(月)～5月17日(金) 参加生徒数 308人 受入事業所数 119か所	【成果】 受入事業所が前年度より4か所増加し、生徒にとっては、社会が自分たちを受け入れてくれることをより実感でき、自信を持って未来に向かう良い機会となった。 【課題】 今後も、生徒が希望する活動が行えるよう、既存の事業所に協力いただきながら、引き続き新規受入事業所の開拓が必要である。	学校教育
環境体験事業	小学校3年生を対象に、環境に関わるテーマを定め、年間を通して、自然の中での体験活動を実施する。自然観察や栽培・飼育等の体験活動を通して、命と環境の大切さを学ぶ。 事業費 1,724千円 実施校数 11校(13学級)	【成果】 地域の自然と触れ合う活動を通じて、地域の人や専門家の指導の下、淡路市の豊かな自然の中で楽しみながら、生命の不思議さに触れ、ふるさと意識を育むことができた。 【課題】 地域指導者や環境教育の専門家の継続確保が重要である。また、学校と地域指導者・団体との連携により、多様な活動を工夫することが必要である。	学校教育
青少年芸術体験事業 (「わくわくオーケストラ教室」バス利用補助事業)	中学校1年生を対象に、本格的なオーケストラ演奏に親しむ機会を設け、芸術文化への興味関心を高めることにより、豊かな情操、感性を身に付けた人材の育成を図る。 事業費 1,605千円 実施校数 5中学校 実施日 9月、10月	【成果】 兵庫県立芸術文化センターを訪問し、本格的なオーケストラの生演奏を鑑賞することができた。感受性が育まれる成長段階において、豊かな芸術に触れる貴重な体験となった。 【課題】 淡路島内3市の実施時期が重なることから、毎年、島内バス会社でのバス手配が難しくなっている。	学校教育
[学識経験者の意見]	○子どもたちにとって体験活動は、自然や人との関わりを育む上で貴重であることは、言うまでもありません。特に、兵庫県での取組は、全国的に注目を集めており、様々な学年で発達段階に応じて、適切な取組がなされています。各学校では、その準備や学校間の連携などもあり、努力されていることに敬意を表します。幅広い多様な体験は、子どもの将来に良い影響を与えることができます。子どもたちの学校生活の充実と将来の生きる力を育むため、これからも工夫を重ねていただくようお願いいたします。 ○体験活動をすることで、いつもと違う環境や人々を通じて貴重な体験ができたりと、考える機会もあったと思います。自然学校での体験は、共感したり判断する機会をたくさん得ることができ、成長できたと思いますので、自然学校事業が途切れることがないようにお願いします。地域の人の時間の流れを知る「トライやる・ウィーク推進事業」は、社会の一員になることで責任や役割を理解して、将来の目的へとつながる重要な活動です。価値あることだと思いますので、新規受入事業所を探し、協力を依頼してください。生命の大切さを感じ取れる環境体験、豊かな感受性を育むオーケストラをそれぞれ体験することで、児童生徒の学習意欲を高め、学力向上につながると思います。今後も、引き続き継続できるようにお願いします。		



環境体験活動より(浦小)



トライやる・ウィーク(東浦中)

4. 地域と連携した防災教育を推進する

【重点目標】①学校・園における防災教育を充実する

事務事業名等	事業内容	評価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
ひょうご安全の日推進事業	安全で安心な社会づくりに貢献する意識を高め、また、災害から身を守ることできる人を育てることにより、周りの人々や次世代の子孫等へ防災意識をつなげ、「持続力のある防災」を実現するため、防災教育や防災研修を実施する。	【成果】 県の助成事業を利用し、講師を招いての防災学習等を実施することができた。また、地域との連携による防災訓練、県教育委員会の防災教育専門推進員の活用等、地域や外部の専門機関と連携した訓練・学習を進めることができた。 【課題】 海岸沿いを通学路としている学校も多く、南海トラフ地震を含む各種の災害から身を守ることできる人を育てるとともに、「持続可能な防災」につなげることが大切である。	学校教育
防犯情報システム（こどもあんしんネット）活用事業	各学校の行事予定や不審者、不審電話、事件情報等、学校安全に係る情報を希望する保護者のスマートフォンや携帯電話に配信する。 事業費 506千円	【成果】 原則全ての保護者が登録を行っており、警報発令時等、緊急時の連絡や注意喚起を一斉配信することで、いち早く、保護者へ情報提供ができた。また、学校行事等の様子（写真含む）の配信も各校において定着し、情報発信の重要なツールの一つとなっている。 【課題】 登録データを効果的に活用し、業務改善につなげる必要がある。そのため、各校の活用方法について、情報共有を図ることが必要である。	学校教育
[学識経験者の意見]	○命を守る取組が継続的に行われており、そのことが「もしも」の時に活用できることが望めます。自然災害は、地震のように予知が難しいもの、気象の変化については、あらかじめ予知できるものがあります。近年の温暖化により、台風の進路予測が難しいものとなっています。また、線状降水帯の発生など、大災害につながる現象も出てきています。より良い判断で行動ができるように、新しい科学的な情報を取り入れ、今後も命を守ることが優先される取組を、継続していただくようお願いします。防犯情報システムの更なる活用が進むよう願っています。 ○『お・は・し・も』の取組の訓練を行い、安全を確保して被害を最小限にするための学びがあることで、被害を未然に防ぐ為の対策や、備える大切さを知って、日々の減災の意識が持てる取り組みと思います。防災文化としての取組を、これからも育んでいただきますようお願いします。「こどもあんしんネット」は、いち早く情報が届けられ、保護者側もキャッチしやすいツールです。災害や、学校からの安全のお知らせ以外にも、児童生徒の学びの様子が見えることは、保護者や地域の方が、学校を身近に感じ取ることができます。各学校の活用方法に決まりがないようですので、発信力を高めるような取組をお願いします。		

※『お・は・し・も』とは、災害時の安全な避難のために、消防庁が教育指導ガイドラインに記した標語「おさない」「はしらない」「しゃべらない」「もどらない」の頭文字



避難訓練（塩田小）

5. ふるさとを学び、地域社会に対する誇りと愛情を育む

【重点目標】①特色ある教育課程を編成し、特色ある学校づくりを進める

②学校評価システムを確立し、地域・保護者に信頼される学校づくりを進める

事務事業名等	事業内容	評 価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
学校評議員の設置及び学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置	各学校に地域の方々からなる学校評議員を組織し、学校経営方針等の教育目標達成のための方向性について示唆をいただいている。 また、順次、学校運営協議会を立ち上げるにより、学校の様子や課題等の情報発信により、学校や学校支援に対する地域の関心を高め、学校支援を行う体制づくりを進める。 学校運営協議会設置校 1校（北淡小）	【成果】 学校の状況を学校評議員に理解いただき、学校としての説明責任を果たす貴重な機会となった。また、地域からの視点での御意見、評価をいただくことで、学校経営を振り返ることができている。 学校と地域が一体となり、「どのような地域社会で、どのような子どもを育てたいのか」という共通の目標を目指す学校・地域の共通の場づくりとしての学校運営協議会を北淡小学校に設置し、取組を進めることができた。 【課題】 北淡小学校での取組をモデルケースに、各校へ学校運営協議会の理解促進を図る必要がある。	学校教育
学校評価の実施	学校が1年間の取組を自己評価し、次年度への改善点を明らかにする。また、学校関係者による外部評価を行い、学校運営に反映する。評価結果は、教育委員会・学校評議員に報告するとともに、保護者等に学校だより等で公表する。 学校評価実施校 16校（全校）	【成果】 全ての学校において、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施、報告、結果の公表、教育委員会へ報告が行われている。評価結果に基づく改善点の検討を通して、教育活動その他の学校運営の改善を図るPDCAサイクルが確立している。 【課題】 地域や保護者に対し、積極的な報告や情報発信等を行うことで、保護者、地域住民の教育活動への参画を促し、児童生徒を共に支え育てる「パートナー」としての意識を一層高めたい。	学校教育
オープンスクールの実施	授業をはじめ給食や掃除、部活動、行事等、学校の教育活動全般を保護者や地域の方々に公開する。 オープンスクール実施校 16校（全校）	【成果】 児童生徒の様子を保護者だけでなく、地域の方にも参観いただけたことで、教育活動への理解を深め、開かれた学校づくりを進めることができた。オープンスクールを通じ得た地域の声を取り入れ、教育活動の改善に結び付けていくことが可能となった。 【課題】 地域住民が学校に関わることができるように、周知方法の工夫を行う。開かれた学校づくりには、同時に、不審者対策の課題が常にあるが、地域の結び付きを強固にし、地域総がかりで学校を見守る体制にすることが重要である。	学校教育
〔学識経験者の意見〕	○学校関係者が関係する不祥事が後を絶たない昨今、学校への信頼が大きく揺らいでいます。淡路市では、幸い注目を浴びる事件事故がないことは、喜ばしいことだと言えます。地域の特性を生かした学校と地域、保護者の連携が、幅広く行われており、素晴らしい状況が見られます。小学校では統合が進み、中学校区と同じく広い地域から児童が通っています。それぞれの学校の取組をオープンスクール等で知っていただくことが、今後も信頼関係を保っていく上で大切になります。常に地域や保護者の声を受け止め、寄り添える学校であってほしいと願っています。 ○目指す学校づくりの取組として、モデル校の設置から検討までの一年間は、改善点の繰返しに時間を掛けたと想像します。災害を受けた旧富島小学校に行って話を聞いたり、アイヌの方を北海道から招き、アイヌの方が受けた差別と文化を学んだり、北淡地区の方からの声も少し離れた私のところに届いたということは、地域から、そして子どもこれからの発信があったからだと思います。コミュニティ・スクールの基本的な方向性を実現し、そして、次なるステップへ進むことを願っています。学校評価は、水準の向上のため、関わる方々が協働的に引き続き取り組み、そのうちの一つのオープンスクールも継続し、保護者や地域の方々との接点を重ねてください。一部の学校では、“学校だより”を地域のスーパーに掲示していただいています。誰もが見ることで、学校との距離感も近く感じます。開かれた学校づくり、そして、見守る地域づくりを、この先も希望します。		

6. 子どもの安全を守る体制、教育環境・施設の充実を図る

- 【重点目標】①教職員の業務負担軽減を目的とした校務系ネットワークの整備を進める
②学校・園施設の老朽化に対応した改修による長寿命化を進める

事務事業名等	事業内容	評価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
教育振興事業	各小中学校のコンピュータシステム（校務系・教育系）を維持する。 事業費（リース・保守費） 小学校 91,978千円 中学校 71,400千円	【成果】 校務系システム及び教育系システムの保守及びリースを継続し、教職員の業務改善や、充実した授業環境の整備を行った。 【課題】 複数のネットワークを統合し、テレワーク環境やネットワークの無線化等を検討し、安全かつ柔軟な職務環境及び教育環境を構築する必要がある。 また、将来的なクラウドサービスの活用について、引き続き検討する必要がある。	教育総務
学校管理事業	教材備品・図書の充実 事業費 （教材備品購入費） 小学校 5,534千円 中学校 3,303千円 （図書購入費） 小学校 2,395千円 中学校 1,109千円	【成果】 教材備品の安定的かつ計画的な整備を図り、それに伴う授業の活性化を図るとともに、図書を通して、家庭と連携した読書活動を進め、児童生徒の主体的・対話的で深い学びを支援することができた。 【課題】 学校規模に応じて、教材整備状況や財政状況などを勘案しながら、教材備品の整備を行う。引き続き、学校図書の蔵書を充実させる必要がある。	教育総務
小中学校整備事業	小中学校校舎・体育館屋上防水改修事業 事業費 27,646千円 （内訳） 設計監理費 1,141千円 工事費 26,505千円	【成果】 小中学校建物の経年劣化による雨漏りが多発しているため、令和5年度に全校の屋上防水調査を行った。そのうち、特に劣化の激しかった浦小学校及び志筑小学校の校舎、東浦中学校体育館について屋上防水の改修を行ったことで、雨漏りが改善された。 【課題】 多くの学校で雨漏りがあり、引き続き継続的に改修を行う必要がある。	教育総務
	小中学校借地解消事業 事業費（土地購入費） 17,184千円	【成果】 学習小学校の借地について、令和5年度に続き、地権者から土地を購入することで、東浦地区の小中学校の借地を全て解消した。 【課題】 津名地区や北淡地区について、いまだ借地が多くあるため、引き続き所有者との交渉等が必要となる。	教育総務
就学援助事業	市就学援助規則に基づき、就学援助認定を受けた世帯に対して、学用品費、給食費、修学旅行費等の助成を実施した。 準要保護児童生徒数（受給者数） 320人 さらに、令和5年度から特別支援学級に就学する児童生徒についても、市特別支援教育就学奨励費支給規則に基づき、学用品費、給食費、修学旅行費等の助成を実施した（就学援助との同時受給は不可）。 特別支援児童生徒受給者数 42人 事業費 小学校17,874千円 中学校11,736千円	【成果】 経済的理由により、就学が困難な児童生徒が安心して就学し、学校生活が続けられるように、的確な運用とその充実が図られた。小中学校においては、入学前に入学準備金を支給している。特別支援学級に就学する児童生徒についても、同様に、運用及び実施できた。 【課題】 物価の高騰等により生活困窮世帯が増え、また母子家庭が多く、就学援助申請者数は年々増加しており、継続した扶助が必要である。	学校教育
[学識経験者の意見]	○物価高騰の中、教育のために多くの事業費が、子どもたちのために有効に使われていることが分かります。この貴重な事業費が、教育環境の充実に寄与していることがうかがえます。特に、コンピュータシステムは、リスクを伴うことがあるので、セキュリティを含め、安心して利用できる環境を常に考えて構築されることを願っています。「就学援助事業」においては、援助を必要とする家庭に寄り添っていただき、就学援助認定がスムーズに行えるように、努めていただきますようお願いいたします。 ○ネットワークの環境が整うことは、総合的に管理運営がしやすくなり、学校教職員は、子どもたちと向き合う時間が確保されると思います。クラウドシステムの強化によって、様々な場面での活用を期待します。それに伴う環境の構築は、リソースが必要になります。引き続き対応をお願いします。図書は、確かな学力づくりとして、充実することが役割と考えます。現状把握をしっかりとし、授業や家庭での読書活動を、引き続きお願いします。経年劣化や損傷などの修理、借地事業も計画的に取り組んでください。「就学援助事業」の運用が、今年度も実施できたことは評価します。物価の高騰が続く中、申請者も増加傾向にあるとのことで、引き続き事業実施をお願いします。		

7. 教育研究活動活性化事業「あいプロジェクト」「学びイノベーション事業」を発展充実させる

【重点目標】①小中連携・一貫教育を見通した指導の充実を図るための研究活動を推進する
②次世代に求められる情報活用能力の育成に努める

事務事業名等	事業内容	評 価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
教育活性化推進事業 「あいプロジェクト」	小中学校が令和時代における新たな教育課題の発見・解決に向けた実践的な教育研究活動を奨励・支援するとともに、小中一貫教育の充実を図り、義務教育9年間を見通した教育の在り方について研究を推進し、教職員の資質の向上や児童生徒の学力向上、生徒指導の充実に資する。 事業費 1,543千円	【成果】 各中学校区での「小中9年間」の連続性を意識した研修を進めてきた。合同研究や他校の校内研修への参加を通して、ユニバーサルデザイン授業、対話的で深い学びにつながる授業、児童理解を柱にした授業等、児童生徒の発達段階や課題に応じた、より最適な授業を目指し取り組むことができた。外部講師の招へいを促進することができ、研修の充実を図ることができた。 【課題】 「9年間で目指す児童生徒像」を教職員間、学校間で共有、連携し、児童生徒を育てるという「開かれた教育課程」、「魅力ある教育」を実現するための視点とともに、具体的な活動を検討していく必要がある。	学校教育
学びイノベーション事業	「タブレット活用教育推進事業（H26～H30）」の継承と発展に向け、全ての児童生徒に対してタブレット端末1人1台環境等を整備し、これらの機器を活用した教育を充実させるための研修を進める。 事業費 57,223千円	【成果】 タブレット端末や周辺機器の更新については軌道に乗っており、設定等の年度更新についても流れはできている。授業における活用研究をリードする「学びイノベーター」を各校で選出し、研究・研修を外部講師の協力も得ながら深めることができた。また、「学びイノベーター」を校内研修の講師として、ICT利活用と授業改善を促進し、児童生徒同士がつながるICT利活用のみならず、教員同士が絆を深める利活用を推進した。 【課題】 デジタル教科書の普及を見据え、Wi-Fiアクセスポイントの台数や回線強化等を充実させる必要がある。授業づくりについては、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が求められる。教育の最新事情を教員が学ぶ研修の機会を持つ必要がある。	学校教育
[学識経験者の意見]	○「あいプロジェクト」において、小中の教職員が児童生徒を9年間でどう育てていくかを議論し、共通理解することが、目標に向け実践する上で大きな原動力となっています。できれば、小学校の教職員が中学校の生徒と、中学校の教職員が小学校の児童と語り合える場を作り、子どもたちの生の声を聞く機会を作っても良いかもしれません。ICT利活用は継続的に進んでおり、淡路市の取組は、全国的にも教職員の資質が上位にあることがうかがえます。昨今、画面を見る機会が増加していますので、目の健康も含めて取り組んでいただければ幸いです。 ○あらゆる人とモノが即座につながる未来社会のS o c i e (ソサエティ) 5. 0に時代を生き抜く児童の教育は、社会全体で支えていかなければなりません。地域の特色を生かした学校づくりや、9年間じっくりと児童に寄り添う教育等、目指す学校現場づくりの取組での、更なる活性化を願っています。限られた予算の中、ICT教育環境や人材の育成は、エネルギーが必要かと思いますが、成果の中で、”教員同士が絆を深める利活用を推進した”の記載は、タブレットを無駄なく活用できていることに評価し、チャレンジを重ねていただきたいと思います。更なる取組が、学校の資質向上につなげていただくよう引き続きお願いします。		



教育活性化推進事業「あいプロジェクト」
合同研修会（東浦中学校区）



学びイノベーション事業
1人1台端末による個別最適で協働的な学習（中田小）

8. 学校保健を充実し、生涯にわたる健康の基礎を培う 食育を通じて健康な心と身体を育成する

- 【重点目標】①専門性と実践的指導力の向上に努める
②地域内で生産される食材の利用拡大に努める
③安全かつ安心できる学校保健・学校給食を確立する

事務事業名等	事業内容	評価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
学校給食の地産地消の推進	地産地消の推進を図り、食育の向上を促進し、児童生徒に安全安心な給食を提供する。年間を通して、地場産食材の使用率を高めるよう取り組む。また、企業及び事業所と連携し、加工食品品目の開発促進を進める。さらに、農家や漁業者と協力し、地元産農産物や水産物を活用する取組を強化する。 地場産食材使用率 68.6%	【成果】 物価高騰が続く中、可能な限り淡路産の食材を指定して使用することができた。月間の全使用量が大量であるため、事業所へ事前に連絡し、不足する場合は、日を限定して納入するなど、少しでも地元産の食材を使用するための工夫ができた。それによって、新鮮で栄養価の高い給食を提供することができた。 【課題】 事業所において、継続的に大量の市内食材を給食用として、安定供給できる生産・加工体制の確保が必要である。また、食材や食品等を厳選することが必要であるとともに、引き続き物価高騰への対応も重要な課題となる。	学校教育 (給食センター)
学校保健事業	児童生徒の学校における健康管理と学校環境の安全を確保する。 事業費 小学校12,776千円 中学校 6,754千円	【成果】 各種検診や健康教育の実施及び測定機器の更新など、各校の実情に応じた児童生徒の健康管理や保健教育の充実を適切に行うことができた。学校環境（水質、照度等）の検査を継続実施することにより、学習環境の安全を確保することができた。 【課題】 検診事業は、市医師会に委託をしている。今後も学校・市教委・医師会の連携を密にし、学校の実情に応じた検診体制を構築していく必要がある。健康診断時の児童生徒への配慮等、社会の多様化に応じた配慮の必要性が毎年高まっている。	学校教育
[学識経験者の意見]	○学校給食において地産地消の推進が図られていることに敬意を表します。給食が子どもたちに届くまでに献立の立案、食材の仕入れ、調理、運搬、配膳、アレルギーへの配慮などがあります。数多くの作業と労力により食の安全が守られて成り立っていることを食育の中でさらに深められることを願っています。物価高騰で仕入れ価格や光熱費などに直接影響を受け頭を悩ませることが多くあると思いますが、食の安全と新鮮で栄養価を踏まえたバランスのある給食の提供が続くことを願っています。「学校保健事業」において、児童生徒の健康管理の充実及び学校環境の検査をもとに学習環境の適正化に努められていることに感謝します。今後も子どもたちの環境整備に努めていただきますようお願いいたします。 ○地場産食材使用率が兵庫県平均よりも高いのは、地元食材の使用や流通経路の明確さも意味すると思います。現在の日本は物価高騰で、食材確保は淡路市においても本当に大変かと思いますが、引き続き取組をお願いします。アレルギー児童生徒の把握と対応も、個別の対応になりますが、よろしくお願いします。児童生徒の健康保持のためには、各種の検査、各学校の実情の健康把握が、とても大事だと思います。そのためには、医師会等との連携を密に、引き続きよろしくお願いします。また、校内の施設環境として、各校の施設が感染拡大になる点がないかを今一度、問題点を洗い出していきたいかと思います。		

9. スポーツ活動を振興する

【重点目標】①地域に根づくスポーツコミュニティづくりと多様なスポーツ活動の振興を図る

事務事業名等	事業内容	評価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
スポーツを通じた地域コミュニティづくり	スポーツ協会、スポーツクラブ21、スポーツ推進委員が協力連携し、その活動を通じて、スポーツの振興を図る。 スポーツ協会 22団体 スポーツクラブ21 7クラブ スポーツ推進委員 32人	【成果】 各種団体の下部組織等、それぞれが協力し、スポーツの振興及び普及に努めた。 【課題】 各種団体役員の高齢化が進んでおり、次世代に向けた役員の確保及び人材育成に努めていく必要がある。	スポーツ推進
市民スポーツ大会・スポーツ表彰式	7月から12月の間にスポーツ協会各種目協会が開催する大会を「市民スポーツ大会」として位置付ける。また、スポーツ活動に貢献又は優秀な成績を収めた人をスポーツ表彰授賞式において表彰する。 参加者 18種目、約1,660人	【成果】 18種目の市民スポーツ大会が開催され、約1,660人の参加があった。また、スポーツ表彰として、優秀な成績を収めた68人の市民を表彰し、広報紙で紹介するなど、スポーツに親しみ、楽しむ意識の向上に努めた。 【課題】 今後も、スポーツ協会と連携しながら、安全にスポーツに参加できる大会運営に取り組む必要がある。	スポーツ推進
市立プール利用支援事業	市内小中学生の泳力を養い体力の向上を図るため、夏休み期間中、津名温水プール、津名第二温水プール、北淡温水プール及び東浦B&G海洋センタープールの利用料金を助成する。 事業費 1,316千円 利用者 延べ3,868人	【成果】 児童生徒の泳力向上と体力の強化等に貢献することができた。 【課題】 施設の老朽化が進んでおり、設備の改修など適正な施設の管理運営に取り組む必要がある。	スポーツ推進
温水プール運営事業	津名温水プール、津名第二温水プール及び北淡温水プールの適正な施設管理を行い、水泳を通して、幼児から高齢者に至るまで、多くの利用者の体力づくりと健康増進を図る。 事業費 40,748千円 (指定管理委託料(3施設))	【成果】 施設の適正な維持管理を行いつつ、延べ72,179人の利用があり、幼児から高齢者に至るまで、多くの利用者の体力づくりや健康増進に貢献することができた。 【課題】 施設の老朽化が進んでおり、設備の改修など適正な施設の管理運営に取り組む必要がある。	スポーツ推進

9. スポーツ活動を振興する

【重点目標】①地域に根づくスポーツコミュニティづくりと多様なスポーツ活動の振興を図る

事務事業名等	事業内容	評価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
スポーツ親善大使	淡路市にゆかりのあるトップアスリートを通じて、淡路市の魅力をPRするとともに、市民の郷土への愛着とスポーツへの関心を高める。	【成果】 淡路市スポーツ親善大使である近本光司選手（阪神タイガース）が、佐野運動公園室内練習場にて、自主トレーニングを公開し、市内外から、2,577人の見学者が訪れた。市民の郷土愛やスポーツへの関心を高めることができた。 【課題】 プロ野球シーズン中の近本選手の活躍により、非常に多くの見学者が訪れたが、今後、更なる入場者の増加に対し、入場制限などの対策の検討が必要である。	スポーツ推進
全淡スポーツ大会	健康スポーツを通して薄れがちな地域社会の連帯意識を強め、交流やスポーツの振興を図るため、ソフトバレーボール及びモルックの二種目を実施する。	【成果】 幅広い年代層の参加者であった全淡スポーツ大会であるが、二種目を開催し、地域交流やスポーツ振興を図ることができた。 【課題】 実施する種目によっては、予選会の実施や研修会の開催、用具の購入費用など事前準備が必要である。 また、モルックについては、人気が高く、申込み件数が多数となり、参加チームが、キャンセル待ちの状況になったことから、開催方法などの検討が必要である。	スポーツ推進



スポーツ親善大使による自主トレーニング
(佐野運動公園室内練習場)



競技種目：モルック
(全淡スポーツ大会)

9. スポーツ活動を振興する

【重点目標】①地域に根づくスポーツコミュニティづくりと多様なスポーツ活動の振興を図る

事務事業名等	事業内容	評価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
[学識経験者の意見]	○多様なスポーツ活動振興のために、事業の展開がなされていることに敬意を表します。スポーツ活動には、数多くのスタッフが必要となり、運営面での苦労や、天候等の条件で開催の判断及び参加者への連絡など、参加者へ配慮することが多く、リスク管理が求められます。プール施設の老朽化による改修は、安全面を第一に取り組んでいただきたいと思います。プール利用が多いことは、喜ばしい限りです。スポーツ活動において、活動中のけがなどを考慮してリスクが最小限になるように、フォロー体制の充実に努めていただくようお願いいたします。「スポーツ親善大使事業」では、憧れの選手であり、郷土の誇りといえる近本選手に出会えることで、スポーツへの関心をさらに高められており、これからも継続していただきますようお願いいたします。 ○スポーツを通じて、交流や親睦を深めて地域が盛り上がり、人々のネットワークも広がり、身体を動かすことが、生活の質を高めると 생각합니다。近年では、モルックの参加チームも増えて他県との交流もあったと聞いています。スポーツ協会、スポーツ21及びスポーツ推進委員が協力し、地域のスポーツ大会への参加、そして、表彰されることの喜びがここからも感じ取れますので、安全に取り組めるよう地域づくりの支援を引き続きお願いします。スポーツ親善大使の存在は、淡路市の人々が身体を動かすお手本でもあり、希望でもあります。少しでも多くの方が、憧れの選手を見ることができたり、淡路市がPRすることで大人も子どもも愛着が湧き、生涯スポーツとして生きがいにつながる活動ができるように、引き続き取組をお願いします。市民プールの存在は、市民にとってとてもありがたい存在です。老朽化が進む中、万が一利用者数が減少していくと、市にとってはとても重い負担になります。必要とされてる施設ですので、メンテナンスを行いながら、事故などないように、施設の管理運営を引き続きお願いします。		

10. 人権感覚に満ちた人づくりに努める

- 【重点目標】①課題と展望を明らかにする
 ②人権に関する学習の活性化を図る
 ③人権尊重の文化に満ちたまちづくりを進める

事務事業名等	事業内容・実施状況等	評 価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
人権啓発事業	人権広報紙 「まるごとじんけん」の編集・発行 事業費 523千円 年3回 各18,000部発行	【成果】 有識者による啓発記事に加えて、市内の人権イベントや小学校・聴覚障がいのある方の体験談や手話の紹介などを掲載して、人権について啓発してきた。また、各戸配布に加えて、市のWebサイトで公開することにより、市外の方への啓発も行っている。Webサイトには、朗読ボランティアグループ「ひとみの会」の協力により、「声のまるごとじんけん」も掲載している。 【課題】 今後も、有益な情報や身近な情報を掲載し、多くの方に見ていただける魅力的な紙面づくりを進めていく。	市民人権
人権啓発事業	人権文集「こころ」の編集・発行 年1回 3,100部発行（市内児童生徒の家庭、公共施設等への配布） 事業費 341千円	【成果】 日頃の学習や生活の中で体験したことを人権の視点で捉え直すため、小中学校・高等学校・一般に人権作文を募集した。また、保育園（所）及び小中学校に、人権に関するイラストを募集した。選出された作文及びイラストを掲載した「人権文集こころ」を発行し、市内の小中高校、図書館・公民館などの公共施設や医療機関に配布した（学校現場での指導に生かすため、例年2月発行を12月の人権週間に間に合うように早めた。）。市内の児童生徒の体験や取組が、作文を通して紹介されることで、保護者や市民からの共感的理解が得られやすくなり、人権について考える良い機会となったという声も寄せられた。 【課題】 公共施設や医療機関への配布など、広く読者を得ようとしてきたが、まだまだ、浸透しているとは言えない。また、作文内容に個人情報を含むこともあるため、掲載、発刊に関しては、当事者への確認を含め、十分に配慮して行う必要がある。	市民人権
人権啓発事業	人権啓発推進教材購入 （人権啓発DVD等） 人権尊重ポスター・標語の募集 人権啓発グッズ作成 （人権標語記載ウェットティッシュ等） 事業費 571千円	【成果】 人権意識をかん養するような啓発グッズを企画し、そこに、市民や小中学校・高校から公募した人権啓発標語や保育園・小中学校から募集したイラストを印刷し、様々なイベントで市民に配布することによる啓発を行った。啓発用品の一つに、手提げバッグがあり、お持ちいただくことにより、様々な場面で、広く人権啓発ができるようになっていく。また、課題であったSDGsに配慮した啓発グッズの作成配布について、再生紙からできた付箋セットやクラフト紙製ファイルを選定し、環境問題に配慮した。 【課題】 さらに、人権意識が浸透していく工夫をする必要がある。	市民人権

10. 人権感覚に満ちた人づくりに努める

- 【重点目標】①課題と展望を明らかにする
 ②人権に関する学習の活性化を図る
 ③人権尊重の文化に満ちたまちづくりを進める

事務事業名等	事業内容	評 価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
淡路市人権教育研究協議会	淡路市人権教育研究協議会では、あらゆる差別意識の解消や人権感覚の醸成を図ることなどを目的として、人権啓発を中心とした事業に取り組んでいる。 淡路市人権教育研究協議会補助金 事業費 4,472千円	【成果】 「じんけん市民講座(5回)」、「人権を考える集い」、「人権シネマの集い」、「学童保育人権学習(13回)」などの事業を実施して、市民への啓発活動に努めた。 また、住民学習支援事業(58回)など、市民の自主的な活動の場に赴き、人権講話を行った。 【課題】 部落問題や男女共同参画社会実現、インターネットによる人権侵害など、様々な人権課題がある。多くの人権課題がある中、効果的に人権啓発を進めるために、どのような取組を行っていくかが課題である。	市民人権
淡路地区人権教育研究協議会	兵庫県人権教育研究協議会及び島内3市の人権教育研究協議会と連携し、淡路地区の人権教育推進を図る。 淡路地区人権教育研究協議会負担金 事業費 1,483千円	【成果】 島内3市各協議会における人権教育推進の実践報告会として、淡路地区研究大会を開催し、人権意識を高めることができた。令和6年度は、ひょうご・ヒューマンフェスティバル2024in南あわじ市に参加し、様々な人権課題について学ぶことができた。淡路市も「淡路市人権教育研究協議会の取組・ひきこもりに対する取組」のパネル展示を行った。 【課題】 いつも、同一参加者が集まる傾向にあるため、新規の参加者をどのように増やしていくかが課題である。	市民人権
[学識経験者の意見]	○「人権啓発事業」において、人権広報紙「まるごとじんけん」が各戸配布だけでなくWebサイト公開され、さらに、「声のまるごとじんけん」の掲載もあり、配慮が行き届いている取組になっていることに、敬意を表します。人権文集「こころ」の編集及び発行には、多くの人が関わり出来上がっています。できるだけ、多くの人に読んでいただき、今後も共感いただけるものとなりますように願っています。淡路市人権教育研究協議会においては、「住民学習支援事業」が58回という実施回数になっており、市民の関心の高さを表しており、素晴らしい取組をされています。淡路地区人権教育研究協議会でも数多くの取組がされており、参加者から周りへ人権意識が広がることを期待します。様々な人権課題がある中で、少しでも前進していける取組となることを願っています。 ○「人権啓発事業」の広報紙「まるごとじんけん」の発行を、市民をはじめ、市外への啓発にも努めていることに、評価します。内容も、大人たちの取組から子どもたちが地域の方と人権を通しての交流の様子や、ときには重い病気をされている方の内容も掲載することは、誰もが平等であり、自分自身を振り返るための紙面と感じていますので、引き続き発行をお願いします。人権文集「こころ」や、人権啓発ポスターは文字を書き、絵を描くことで向き合える時間が児童に与えられ、自分と、自分以外のことを見つめることができる貴重な行動です。活動の内容によっては、文集はとてどもデリケートなこともあると思いますので、難しいこともあるでしょう。人権啓発グッズの配布やSDGsに取り組むことで、人々にも分かりやすく、メッセージが効果的に伝わっていると思いますので、いつまでも大切に長く使ってもらえるグッズ開発に挑戦してください。これからも、人権シネマや集いによってたくさんの方に広め、地域の方とのズレが生じないように引き続きお願いします。		



人権広報紙「まるごとじんけん」



第4回淡路市じんけん市民講座



淡路市小中学校教職員人権研修会

11. 生涯学習の機会・環境を充実させる 図書館のサービス体制を充実させる

- 【重点目標】①生涯学習社会の構築を目指して、学習機会の拡大や学習成果の活用の推進を図る
②住民のニーズに応じて生涯学習施設の一層の利便性を図る
③住民の学習活動の活性化に向け、各種団体の育成や活動支援を図る

事務事業名等	事業内容	評価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
公民館活動の充実	公民館において、市民の生きがいとなる学習を通して教養の向上、生活文化の振興、社会福祉の増進等、こころ豊かな生き方や地域づくり、人づくりを学ぶ機会を提供する。 事業費 179,026千円 講座数 437講座 受講者数 754人 延べ受講者数 5,480人	【成果】 親子や男女共同で参加できる講座等を企画し、協力し合って体験することで、受講者の親睦を深めることできた。 【課題】 健康講座等、受講希望者の多い講座については、講座回数を増やすなどして、できるだけ多くの方が受講できるように工夫しているが、それでも希望に応えられない場合がある。一方で、受講希望者の少ない講座については、講座内容の見直しが必要である。	社会教育
高齢者講座の運営	豊かな人生経験者である高齢者が、仲間づくりの輪を広げながら、新たな教養を身に付け、充実した生活環境や健康増進に役立つことができるように推進する。 地域 5地域 講座数 100講座 受講者数 385人 延べ受講者数 2,707人	【成果】 年間を通して高齢者の方が自ら講座に参加し、仲間づくりの輪を広げ、自主的な生活意識の確立や生きがいを創造するための支援ができた。 【課題】 新しい講座内容の検討が必要であるとともに、男性受講者が少ないため、男女共同で参加できるニーズの把握が課題である。	社会教育
図書館の運営	第2次淡路市立図書館基本計画に基づき、多様化する市民ニーズに対応するため、行政主導ではなく、図書館パートナーの会等と連携し、市民協働による図書館運営に取り組む。また、第2次淡路市子ども読書活動推進計画に基づき、学校等と連携し、市内の幼児や児童生徒に対する読書環境の充実に努める。 事業費 115,172千円 利用者数 66,760人 貸出冊数 258,552冊	【成果】 地域課題の解決に向け活動している市民団体と協働し、多様なサービス、地域情報の収集・保存・活用・発信を行った。中でも、阪神・淡路大震災を語り継ぐ展示や講演会をはじめ、「図書館フェス」では、SDGsをテーマに図書館パートナーの会による「淡路竹で楽器づくり」、古民家再生協会による「廃材本棚づくり」、園芸団体による「エコ寄せ植え教室」、ALTの「英語紙芝居」など、多様なイベントを行い、情報発信拠点としての役割を果たした。 【課題】 ・図書館運営体制の強化 ・子どもに対する読書環境の充実 ・地域活性化につながる拠点づくり	社会教育



市民団体との協働イベント（図書館フェス）



一宮公民館（親子プログラミング体験教室）

1 1. 生涯学習の機会・環境を充実させる 図書館のサービス体制を充実させる

- 【重点目標】①生涯学習社会の構築を目指して、学習機会の拡大や学習成果の活用の推進を図る
②住民のニーズに応じて生涯学習施設の一層の利便性を図る
③住民の学習活動の活性化に向け、各種団体の育成や活動支援を図る

事務事業名等	事業内容	評価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
社会教育委員による社会教育施策の検討	地域住民が中心となる社会教育実践の場の構築、社会教育施設に向けた提言を行う。 委員会開催数 3回 (うち1回は、公民館運営審議会と合同開催)	【成果】 公民館施設等を中心に、地域の特色に応じた生きがいつくりや市民の学びの場を提供することができた。本市の社会教育事業について、委員から積極的に意見を伺うことができた。また、毎年開催している島内3市の研修会を、今年度は本市で開催し、統廃合で閉校した小学校跡地の新たな地域拠点としての活用事例を見学していただくことで、更なる提言につながると考えられる。 【課題】 若者世代も参加できる生涯学習の推進や就労に向けての学習及び急速に発達するAI、SNSの必要な知識を習得する機会の充実を図る必要がある。また、市民への周知方法についても、広報紙、ホームページ、SNS等を効果的に活用し、より広く情報発信できるように工夫する必要がある。	社会教育
二十歳の祝典の支援	大人としての自覚と誇りを持つとともに、自ら生き抜こうとしはじめる二十歳の若者自身が主体となって、地域の皆様と共に、人生の節目を祝福する。 日 時 令和7年 1月 12日(日) 場 所 しづかホール 参加者 272人 淡路市二十歳の祝典実行委員会活動助成金 事業費 100千円	【成果】 二十歳を迎える実行委員による実行委員会を組織し、自らの手で企画運営を行い、二十歳の祝典を意義あるものにすることに努めた。式典を撮影し、期間と対象者を限定してネット配信(録画配信)を行った。 【課題】 引き続き、実行委員会の主体的な運営を促進し、二十歳の祝典の企画を成功させる支援が重要である。	社会教育
婦人会の活動支援	課題が多様化する地域社会において、特に女性の立場から、男女共同参画、青少年健全育成、環境美化活動、子育て支援を推進し、心豊かな地域づくりに寄与する活動の支援を行う。 淡路市婦人会補助金 事業費 650千円 会員数 60人 加入団体 2団体(一宮・東浦)	【成果】 「生命と暮らしを守るためのライフスタイルの創造」を努力目標とし、子育て支援や青少年健全育成、防犯啓発、環境を考えたリサイクル活動、地域での奉仕活動等の幅広い活動を行い、心豊かな地域づくりの推進に寄与した。令和6年度は、淡路市夏まつりや敬老会、福祉大会、淡路環境のつどいなどのイベントに参加した。また、研修会では、消費者トラブルの対策などの啓発を行った。 【課題】 会員の高齢化と減少が進んでおり、組織の活性化のため、地域で新しい婦人会活動の在り方を研究・支援する必要がある。	社会教育
[学識経験者の意見]	○生涯学習に関しては、多様な講座が用意されており、良いことだと感じました。参加者の希望に応じて、今後見直しは必要であると感じます。より良い講座の開設も含めて、よりニーズに合ったものが開設されることを願っています。高齢者講座は、女性受講者が多いようなので、男性と女性からニーズの把握を、積極的に進めていくことが求められると感じます。図書館の運営については、貸出しだけでなく、いろいろな取組がなされており、地域のコミュニケーションの中心的役割を果たしています。「二十歳の祝典事業」の支援は、年々参加者は減少していますが、郷土を振り返り将来の夢を語り合う場として、今後も大きな役割を果たしていくと思います。 ○公民館活動や高齢者講座などは、各地域の特徴を捉えて講座を行っていると思います。市民が公民館へ足を踏み入れ、この場所が誰もが利用していいと思える気持ちになり、幅広い年齢層の利用がある施設であることを、これからもお願いします。図書館のイベント発信は、いろいろな方向から市民へのアプローチができています。実際に、「行ってみたい」、「体験してみたい」と思える講座なども、図書館のスタッフが考えているのも伝わります。図書館パートナーの方も、実際に会って話をさせていただきましたが、前向きな取組をされている方々であると感じました。図書館運営の更なる工夫や地域の活性化を、引き続きお願いします。「二十歳の祝典事業」は、準備が大変なことだと思います。この一日のために実行委員会を立ち上げ、何度も集まり企画するとは思いますが、支援を引き続きお願いします。		

12. 青少年健全育成を市民ぐるみで推進する

- 【重点目標】①学校と地域との連携・協力体制を強化し、子どもを健やかに育む支援を図る
 ②青少年の健全育成に資するため、各種事業の充実を図る
 ③急激な少子化や核家族化の中で、親子の絆を深め心豊かに子育てができる支援を図る

事務事業名等	事業内容	評価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
放課後子ども教室推進事業	放課後や休日の子どもの安全・安心な活動拠点、居場所づくりとして、市内に5か所6教室の「放課後子ども教室」を設ける。 事業費 1,464千円 登録者（6教室） 194人	【成果】 地域の方々の参画を得て、学習活動やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の様々な体験活動の機会を提供することにより、参加児童たちの社会性、自主性、創造性等の豊かな人間性かん養することに努められた。登録児童の参加率も高く、放課後の子どもの安全・安心な居場所づくりとして、一定の役割を果たすことができた。 【課題】 地域ボランティアの裾野を広げ、学校・家庭・地域の連携体制強化を図るための施策が必要である。	社会教育
地域学校協働本部推進事業	地域と学校の連携・協働体制推進事業のコーディネート、人材バンクの作成と管理を行う。また、学校教育課と連携し、コミュニティ・スクールの導入を推進する。 事業費 671千円 対象校 市内小中学校	【成果】 人材バンクとの連携を強化することで、地域と学校のつながりを深め、地域学校協働体制を推進することができた。コミュニティ・スクールの導入については、学校教育課と連携し、協議の場や各種研修に参加することで、知見を深めた。 【課題】 コーディネーターの活動範囲を拡大し、地域と学校が連携・協働する仕組みの充実、ネットワーク化をさらに進めていく。そのため、地域や学校、家庭との情報共有を今まで以上に進めていく。さらに、地域の新たな人材を発掘し、人材バンクをより充実させることも今後の課題と言える。	社会教育
放課後児童健全育成事業	保護者が仕事等により昼間家庭にいない就学児童及び健全育成上指導を要する児童を対象に、放課後及び長期休業日（春・夏・冬休み）に生活の場を確保し、適切な遊びや指導を行う。 事業費 182,820千円 登録者（11学童） 671人	【成果】 放課後及び長期休業日に家庭に代わる生活の場を確保し、適切な遊びや指導を行い、児童の健全育成を図ることができた。また、かねてから要望のあった19時までの保育時間の延長を、次年度から実施することにより、更なる保護者の仕事と子育ての両立支援体制の充実を図ることとする。 【課題】 共働き世帯の増加や移住者増に伴い、児童利用者が増えており、支援員の確保が課題となっている。	社会教育



「学童保育」と「放課後子ども教室」の校内交流型事業を展開
 （段ボールで遊ぼう 北淡地域）



放課後子ども教室（冒険の森）

12. 青少年健全育成を市民ぐるみで推進する

- 【重点目標】①学校と地域との連携・協力体制を強化し、子どもを健やかに育む支援を図る
 ②青少年の健全育成に資するため、各種事業の充実を図る
 ③急激な少子化や核家族化の中で、親子の絆を深め心豊かに子育てができる支援を図る

事務事業名等	事業内容	評価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
青少年センター管理運営事業	青少年の補導活動を総合的に推進し、青少年の非行化を防止するとともに、学校・家庭・友達で困ったことや心配ごとの相談をはじめ、不登校生のための適応指導教室の運営及び各学校の生徒指導の支援を行う。 事業費 19,719千円	【成果】 青少年センター適応指導教室では、不登校児童生徒への修学指導の強化を図り、登録者11人（うち通所者11人）で、4人の学校復帰となった。 【課題】 不登校児童生徒に対し、個々の状況に応じた個別的・継続的な相談・支援を行い、その特性を生かした就学・就労等に結び付けるため、学校等関係機関と連携し、これらに対応するための支援体制の継続が必要である。また、通所するには、車での送迎が必要であり、利用したくても利用できない状況もあり、地理的な改善が必要である。今後も、不登校児童生徒が学校復帰できるようハードとソフトの両面でのケアを行っていくことが必要である。	社会教育 学校教育
淡路市PTA連合会の活動支援	PTA相互の連絡・調整、会員の研修及び社会諸情報の情報交換を行う。また、家庭教育及び社会教育の改善振興、学校教育の充実発展を促し、関係機関・団体との連携を図る。 淡路市PTA連合会補助金 事業費 280千円 組織数 15校（市内16小中学校のうち）	【成果】 淡路市青少年健全育成委員会と合同でPTCA地域フォーラム・青少年健全育成大会を開催し、不登校と睡眠障害に焦点を当て、教育の今日的課題について、情報交換と共通理解を図ることができた。また、アトラクションとして、市内活動団体による「子どもファッションショー」を行い、成果発表の場が提供された。 【課題】 単位PTAでは、毎年の役員選考をはじめ、運営に関する様々な課題を抱えている。役員の単年度交代制により、活動の継続性や目的意識の共有が不足することで、活動の形骸化を招かないように、PTA活動や各事業の目的を会員全体で確認し、活動本来の意義を共有することが重要である。	社会教育
青少年健全育成事業	淡路市青少年健全育成委員会等を中心に、青少年の心と体への健全な発展を促し、自主性・社会性や正義感・倫理観を持った心豊かな人間性を育むため、地域ぐるみで取り組む青少年健全育成活動を推進する。 淡路市青少年健全育成委員会補助金 事業費 360千円	【成果】 地域の関係機関や団体と連携して、青少年の健全育成に努める。共に生きる地域社会の実現を目指して、地域の子ども会活動等を通して、青少年の触れ合い活動やグループ活動の充実を図るなど、家族間、世代間、地域間の交流を促進し、青少年に生きがいを持たせる活動を行った。 【課題】 青少年は、様々な背景やニーズを持っているため、全ての子どもたちに適したプログラムの提供は容易でない。また、地域社会の支援、理解と協力を促す必要がある。	社会教育
[学識経験者の意見]	○青少年健全育成は地域の協力が必要であり、それに伴う協力者の確保が大きな課題となっています。子育てをしている家庭にとってニーズの高いものとなっている「放課後児童健全育成事業」は、今後ますます重要度を増してくると思われます。児童の安全面と安心感を第一に考えての運営に、これからも努めていただきますようお願いいたします。青少年センター適応指導教室の取組は、不登校児童生徒の不安を取り除き、次へのステップをつかむためのよりどころとなっています。各学校と連携を密にして、これからも児童生徒の将来に希望が持てるような運営をお願いします。PTA活動は、なかなか難しい課題もあると思いますが、教職員と保護者の連携による学校運営をより良きものにするため、それぞれの協力体制を強固にしていっていただくようお願いいたします。 ○「放課後子ども教室推進事業、放課後児童健全育成事業」の存在は、子どもの放課後の居場所づくりが孤独から遠のき、安心と安全であると意味します。また、コミュニティ・スクール導入において、地域の方のライフスタイルを持つ中での調整は、何かと理解を求められるのも現実の中、成果として知見を深めたとのこと、共に評価します。不登校児童生徒支援ですが、児童生徒本人、そして、家庭の相談を受けられる体制であること。そして、対応が、関係者と連携を取って、あらゆる可能性を引き出し、適切な対応を引き続きお願いしたいと思います。青少年センターの利用に対して、センターまでの送迎の課題が毎年あるようですが、今一度可能な方向で検討をお願いします。淡路市青少年健全育成委員会と淡路市PTA連合会の合同「PTCAフォーラム」ですが、毎年内容は工夫をされているように思います。今年度の出来事や、伝えたいことに着目点を置いていると感じました。昨年度の睡眠に関する内容は、講師は違いますが、塩田小学校6年生も学んでいることから、それだけ大切な内容であると意味します。深い内容の講演会を行うことができていると思いますので、引き続き取り組んでください。		

13. 芸術・文化活動を振興する

- 【重点目標】①市民の創造的な芸術文化活動の推進と環境の整備を図る
 ②文化団体間での交流を促進し、市民の文化活動の活性化を図る
 ③地域の文化・芸術の向上をめざし、活動の拠点の整備と充実を図る

事務事業名等	事業内容	評価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
文化団体の活動支援事業	芸術文化振興のため、淡路市文化協会を中心とした市民団体の活動に助成を行う。 淡路市文化協会補助金 事業費 3,328千円	【成果】 市文化協会の本部事業として、文化公演会「わいわい！ジュニアパフォーマンス祭」や「淡路市総合文化祭」など、幅広い年代の市民が芸術文化に触れる機会を創出した。 また、地域事業においても、各地区の特色を生かした活動「静御前まつり」、「歴史探訪」、「ウィズ・ハッピーまつり」等、年間を通して継続実施し、市の芸術文化の振興に寄与した取組ができた。 【課題】 高齢化する社会にあつて、後継者の育成や会員の減少など、加盟団体の活性化の支援が必要である。	社会教育
文化ホール管理運営事業	市内2か所の各ホールで地域性豊かな自主事業及び貸館事業を行う。 事業費 しづかホール 121,277千円 サンシャインホール 30,919千円	【成果】 市内2か所のホールは、指定管理者制度を導入している。指定管理者と協議を行いながら、施設の特性を生かした自主事業を実施した結果、市内に限らず、多くの方に参加いただき、ホールの認知度を向上させた。 老朽設備の更新を実施し、安全、安定したホールの運営に努めた。 【課題】 施設、設備の老朽化による改修、更新が急務となっており、物価高騰や資材等、納期の長期化を考慮し、計画的に改修工事を実施することで、安定した運営を行う必要がある。	社会教育
[学識経験者の意見]	○文化団体の活動支援事業において、幅広い年代の方々が、芸術文化に触れられる機会があることはうれしい限りです。多くの方々に見ていただくことで、地域の魅力発見に寄与していると思います。文化ホールの管理運営は、年を重ねるにつれて、機材の老朽化による改修や建物の修繕に、多くの経費が掛かるところです。施設設備を長期的に生かすためにも、改修や修繕等の必要な部分を見極めていただきますようお願いします。 ○芸術文化振興活動は、長きにわたり受け継がれている内容もあると思います。一人でも多くの方が、文化に触れ合い、文化祭やイベントに参加できるよう多様な情報手段を活用して、幅広く周知ができるように取り組んでください。それぞれの催しの特徴を生かし、市の芸術文化の創出を、引き続き行っていただくようお願いします。しづかホールは、残響音が良く、図書館とのイベントや収容数を生かした活動を行い、また、サンシャインホールは、レイアウトが変更できる使いやすい施設になっているのが特徴ですが、それらは老朽化も進み、改修工事が毎年必要な状況です。物価高騰の影響もあるとは思いますが、引き続き対応をお願いします。そして、少しでも多くの市民が、ホールへ足を運ぶための運営を期待しています。		



しづかホール開館30周年記念事業
上方演芸会



しづかホール開館30周年記念事業
しづかフェスティバル



文化協会活動
静御前まつり

14. 文化財を適切に保存、積極的に活用する

【重点目標】①文化財の活用による郷土への理解の促進を図る

②埋蔵文化財の発掘調査を実施し、開発事業の円滑な推進と文化財の保護との調整を図る

③伝統芸能や無形民俗文化財の保存・伝承を図る

事務事業名等	事業内容	評 価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
埋蔵文化財調査事業	各種開発事業に伴う埋蔵文化財調査を実施し、適切な保護措置を図るとともに、出土遺物の整理作業を推進し、調査報告書を作成する。 事業費 2,700千円 調査遺跡数 14件	【成果】 個人住宅等の建設に伴う試掘確認調査及び発掘調査を実施し、埋蔵文化財保護と円滑な事業推進の調整を図った。また、小学校に赴き、子どもたちや教員を対象に、土器等を直接手で触れる出前授業を実施した。発掘調査で明らかとなってきた郷土の歴史を伝え、地域の歴史について共有し、考える機会を設けた。 【課題】 市民が、地域の歴史文化遺産に関心を持てるような展示や勉強会等を開催する必要がある。教員と連携し、学校教育での活用を推進する必要がある。今後、市民と文化財に対する歴史的価値を共有するために、合併以前に実施した発掘調査の成果をまとめ、調査報告書を刊行継続する。	社会教育
史跡五斗長垣内遺跡保存活用事業	史跡五斗長垣内遺跡を適切に保護するとともに、遺跡の特徴を生かし、歴史・環境・地域の成り立ち等を学ぶ場として活用を図る。また、遺跡を活用したイベントを継続することにより、地域の活性化を推進する。 事業費 6,421千円 来訪者数 9,790人	【成果】 地域住民やボランティア養成講座と連携し、史跡の維持管理を行い、草刈り業務を地域団体に委託することで、地域住民にとって魅力の再認識やおもてなしの心を育むといった、風土の醸成に寄与した。また、地域と連携したイベントを継続することにより、地域の活性化と地場産品のPRにつなげることができた。 【課題】 地域住民やボランティア養成講座と連携し、適切な保護を行うとともに、人づくりの学舎、地域づくりのシンボル、交流の拠点として、積極的な情報発信に努める。また、ボランティア登録者数が減少しているため、追加募集、育成を行い、体験事業等の充実を図る必要がある。	社会教育
国生み研究プロジェクト事業 ～ふなき 舟木遺跡 重点調査事業～	舟木遺跡をはじめとした弥生時代遺跡群の総合的な調査を行う。 事業費 1,737千円	【成果】 史跡整備事業の基礎資料となる植生調査を実施するとともに、「史跡舟木遺跡整備計画検討会」を発足させ、整備計画の検討を開始した。 【課題】 引き続き、淡路市文化財保存活用地域計画に示している舟木遺跡の全域を対象とした継続的な発掘調査の実施や出土遺物の分析、五斗長垣内遺跡との関係性等について研究する必要がある。 また、整備計画の策定に当たり、専門家の意見を取り入れるとともに、検討会に参画している地域住民の意見を取り入れながら、整備計画の策定を進めていきたい。	社会教育

埋蔵文化財発掘調査の様子
船原遺跡五斗長垣内遺跡
たまねぎまつり

五斗長垣内遺跡ボランティア活動

14. 文化財を適切に保存、積極的に活用する

【重点目標】①文化財の活用による郷土への理解の促進を図る

②埋蔵文化財の発掘調査を実施し、開発事業の円滑な推進と文化財の保護との調整を図る

③伝統芸能や無形民俗文化財の保存・伝承を図る

事務事業名等	事業内容	評 価	担当課
		成果・課題及び今後の対応等	
野島断層保存活用事業	国指定天然記念物の野島断層の補修及びクリーニング工事、北淡震災記念公園内の震災体験館に設置している地震体験装置を更新した。専門機関と連携し、展示内容の充実を図るとともに、普及講演会を開催した。 事業費 37,439千円	【成果】 野島断層の補修及びクリーニングを行い、断層の保護を行った。また、専門機関と連携し、見学者の地震記憶継承と防災教育の教材とする展示パネルを作成し、野島断層及び活断層に対する関心や理解促進に寄与した。また、震災体験館内のシアターにおいて解説している映像更新及び普及講演会の実施によって、防災・減災の意識の向上を図った。 新たな地震体験装置について、震災30年の節目となる令和7年1月17日に運用を開始した。 【課題】 今後は、阪神・淡路大震災から30年以降に向けた、震災の記憶継承や防災・減災への活用、展示物のリニューアル、野島断層の日常管理について、精査が必要である。	社会教育
文化財保存補助事業	市内に所在する指定文化財の保存管理を行う団体等に対し、保存、管理及び活用に係る経費の一部を補助し、文化財の適切な保存に努める。 事業費 750千円 件数 6件	【成果】 江戸時代初期の頃とされる庭園を持つ「妙勝寺」等、指定文化財の保存管理を行っている団体に対して補助金を交付し、文化財の維持管理や地域文化の継承及び普及・啓発を支援した。このような取組の結果、10年ぶりに無形民俗文化財（梯子獅子）の実施につなげることができた。 【課題】 過疎化・少子高齢化が進行する地域では、当該補助金があっても関係者の負担が大きいことから、これまでのように地域で保存することが難しくなっている。文化財の歴史教育を推進するとともに、地域の宝・シンボルとしてPRし、保存・継承する後継者の育成支援に取り組む必要がある。	社会教育
〔学識経験者の意見〕	○文化財の保護と活用は、地道な活動があつてのことだと想像します。その価値をしっかりと伝えるためにも、啓発と展示、解説、体験が欠かせません。郷土の素晴らしさを知る上でも、大きな役割を果たしていただきますようお願いします。専門家の助言もいただく中で、調査と活用之道を、地域の方々と協力を得ながら共に推進して、更なる魅力発信につながることを願っています。 ○防災の意識が高まる野島断層、とても長く更なる試練が想像できる舟木遺跡や、10年ぶりに開催した梯子獅子。これらはたくさんの方々や、専門的な方々との協働があり、そして、膨大な時間を掛けたことや、一つ一つが重要な中、文化財への深い思いに感謝します。埋蔵文化財の土器等のふれあい授業、五斗長垣内遺跡の鉄器や火起こし体験は、体感を通して学ぶことができ、歴史への興味も増すことができることで、淡路市だからできることだと思いますので、評価します。淡路市ふるさと副読本等を活用しながら、地域発掘や地域の歴史を学ぶことは、自分自身のアイデンティティを確立するとても重要な役割だと思いますので、引き続き地域の方々と触れ合い、体験活動の充実を図るようお願いします。		



地震体験装置の運用開始

野島断層普及講演会
(セミナーハウスにて)五斗長垣内遺跡
体験受入れの様子

[総評・その他]	○令和6年度、淡路市のめざす教育の姿を基本理念を下に具現化されて、事業が実施されていることに敬意を表します。学校教育では22の事業がなされ、子どもに寄り添うために、大きく寄与していると感じました。一朝一夕には結果が出ない教育は、長期的に将来を見据えて進めていく必要があります。情報過多な時代である昨今、正しい情報を見極める力と情報に流されない姿勢が大事であると感じます。生涯にわたってウェルビーイング（身体的、精神的、社会的に良い状態）な中で生きていける状態を構築できるようにする必要があります。学校現場で、より良い状態で子どもを見守ることができる状況づくりをお願いします。社会教育では、26の事業がなされ、スポーツ、人権、生涯学習、青少年健全育成、文化、芸術など多岐にわたって取組がされていることに敬意を表します。特に、多くの人に参加していただくことが意味を持つことが多いと思います。淡路市では、いろいろな職場で外国籍の人が働いています。グローバルな社会で、人権意識の向上は欠かせません。淡路市だけでなく、世界の人々が笑顔で暮らせる未来をめざしていきましょう。最後に、教育委員会及び関係者の皆様の御努力に対しまして感謝申し上げます。 ○淡路島の自然に触れ、豊かな心を築き、生きる力を育成する子どもたちへの教育や、オール淡路で取り組む子育て支援は、多岐にわたる事業を各担当課が丁寧に取り組み、令和6年度の淡路市教育委員会の目標達成へと向かい、様々な課題を乗り越えられたことに敬意を表します。これからの更なる現代社会の問題点や課題を見つけ、事業を進めていただきたいと思います。変化の激しい社会を生きるこれからの子どもたちは、確かな学力や健やかな体といった『生きる力』の育成が重要です。これから生きていく中で、何度も考えることや判断する場面に遭遇します。それは自分のため、そして、自分以外の人のためだということが、この9年間の学校生活の経験を通して、心を養っていただきたいと思います。めざす学校づくりの重点を推進することで、質の高い教育が求められる学校現場も乗り越える課題は尽きることがないとは思いますが、チームとなり熟していただきたいと思います。今年で淡路市になり20年、阪神・淡路大震災から30年の年になります。あの頃の生徒だった子どもの更に子どもが、今の学びの場所にいます。行政や地域も一体となり、淡路市の教育施策を進めていただきますよう、これからもよろしくお願いします。
-----------------	---

学識経験者（50音順 敬称略）

清水 かなよ、谷 宜憲

〈参考〉

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定によ教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検と評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。





令和 7 年度（令和 6 年度対象）
淡路市教育委員会点検評価報告書

編集・発行 兵庫県淡路市生穂新島 8 番地
淡路市教育委員会事務局
教育部 教育総務課 総務係
電話 0799-64-2537（直通）